

わ…私は…
牧野 茜…

そんな当たり前のことを
口にしただけで
ドキドキしてしまう

部活でかいた汗と
制汗スプレーの混じった
甘い匂い

肌に張り付いた
下着の感覚…

ドキ

なんで…コレ
おかしって…

見慣れたはずの
自分の身体…

…いつも通りの
はずなのに…

キュン

キュン

ドキ

自分で
しちゃうことは
たまにある…

…それはいつも
先輩のことを
考えてだった…

部活中、私が足捻ったとき
背負って保健室まで
連れて行ってくれたっけ…

思い出すと胸が
キュンとなる…

でも…

はあ…
はあ…

このごろ
先輩よりも
自分…

「牧野 茜」に
胸が高鳴る…

…この下に
おまんこ…
あるんだよね…

そ…そんなの
当たり前
じゃん…

んっ

股間を少し
キツめに締め付ける
スポーツショーツの
感覚が何故か新鮮に
感じてしまう…

お:「俺」が
牧野さんに
なっただけ...

わざと「俺」とか
口にすると
興奮しすぎて
頭の奥が
痺れてくる...

すあ
すあー

...ふと私が
「牧野 茜になった男子」という
馬鹿げた妄想をしてしまう...

「俺」が牧野さんの
身体で
いく...ツッ

あっ
はあ
これ...すごい

ニャ
ニャ

ニャ
ニャ

ニャ

ニャ
ニャ



…また
しちゃった…
しかも部屋だし…

はあ
はあ

少しの
罪悪感と
嫌悪感…
…それでも…

「私は
牧野茜…」

そう
つぶやくと
幸せな気持ちで
いっぱいになる…